

docomo 班

久保達也・吉田裕伴・唐鎌千浩・
生駒慎二・雨宮加奈

1. 準備に関する反省と感想

今回のプレゼンでは、私たちのグループが docomo を、相手のグループは au を受け持ちました。情報を集めるにあたって、現在 docomo が au に追い上げられていることもあり、docomo が au よりも勝っているといった点を見つけるのに苦労しました。また、調べてきた内容が実際には使えないといった情報も多かったのも、まとめる作業も大変でした。スライドの最後に参考文献を載せる際に、どの資料をどこから集めたのかわからなくなり、それを確認するといった作業に時間をとられてしまったということもありました。

反省する点は、プレゼンで何を述べたいのかを具体的に決めて、それに対しての資料を集めればよかったということです。調べてみて、この内容はやっぱりやめようといったことが多くあったので、それを改善できていれば、もっと内容を良くできたと思いました。

2. 合同ゼミでの報告内容とそれに対する質疑の概要

当日の合同ゼミでは、「シェア」「経営戦略」「今後の経営戦略」「まとめ」の大きく 4 つについて発表しました。

最初の「シェア」については有価証券報告書による営業収益の比較や新聞記事を使ったシェアの比較など、数字を出して具体的に説明をしました。ここでは docomo が au に追い上げられているということを述べました。

「経営戦略」では、現在の docomo と au の料金プランの比較を行い、料金プランにそこまでの差がないことを説明し、docomo にしかないサービスを述べました。そして、「今後の経営戦略」のところでは、現在の au では取り扱っていないスマートフォンを前面に出すことで、docomo の将来性についてうまく述べられたと思います。

質疑については、私たちと相手側の方向性が大きく違っていたこともあり、お互いの質問の方向性も違っていました。私たちのスライドが docomo の製品紹介のようになってしまったこともあって、それに対しての指摘を受けました。逆に私たちはスマートフォンについて質問したのですが、相手側がスマートフォンを知らないなど、お互いに準備不足だったことがよくわかりました。

3. 合同ゼミに関する感想と反省

今回の合同ゼミを終えてみて感じたことは、相手側との方向性の違いが残念だったということです。方向性が違うということで、質疑の時間に有意義な討論ができませんでした。

反省点としては、担当する部分の原稿を暗記しておき、前を向いて声を大きく出し話すべきだったと思います。そして docomo の宣伝のようなプレゼンになってしまったので、もう少し内容を戦略的にすればよかったと感じました。また、こちらが質問を受けたときに、言葉足らずでうまく返答できなかったことは反省すべき点だと思いました。

グループでのプレゼンのやり方、プレゼンの資料の作成など、とても良い経験をすることができました。また、資料を作る過程で仲間と意見を交換しながら 1 つのものを作っていた時間はとても貴重な時間になりました。本番は緊張してうまく話すことができなかったかもしれませんが、終わった後はとても充実感がありました。

(文責 久保 達也)